１年　単元名「きせつとともだち　～みなさんこんにちは～」（生活科　里海に関する時間　４時間）

～海に親しむ～

１　単元設定の理由

本単元は，学習指導要領の内容（５）季節の変化と生活，（６）自然や物を使った遊びに基づいて設定したものである。身近な自然とは，児童が繰り返し関わることのできる自然であるとともに，四季の変化を実感するのにふさわしい自然である。学習指導要領解説生活編では，身近な自然の例として，川や土手，野原のほかに，海や山なども掲げられている。そこで，本校の海洋教育と関連し，身近な自然を「校庭」と校舎裏の「九十九っ子の森」，校区の「のと海洋ふれあいセンター」の海辺の３つに設定した。１年を通して，里海と里山の両面から自然と繰り返し関わることで，見られる生き物や様子が違うこと，季節による様々な自然の変化に気付くことをねらいとしている。

２　単元目標

年間を通して身近な磯の自然に触れ合う活動をする中で，ふるさとの自然に関心をもち，季節の移り変わりを実感できるようにする。

３　単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
進んで自然と触れ合い，自然の変化や不思議さを感じ取り，諸感覚を用いた遊びや生活を楽しもうとしている。	四季の変化について自分なりに考えたり，身近な自然物を利用した遊びを工夫したりして，それらを表現している。	自然と触れ合い，楽しく遊びながら，季節の変化や遊びの楽しさ，自然の不思議さに気付いている。

４　単元の指導計画

時	学　　習　　活　　動	指 導 上 の 留 意 点
1	諸感覚を通して里海の自然と触れ合う。 ・のと海洋ふれあいセンターの海辺へ行き，里海の自然と触れ合う。 ・夏の時期に見られる海藻を採集する。	・事前に，のと海洋ふれあいセンターの方にどのようなねらいをもった学習なのか打ち合わせをしておく。 ・救命胴衣，マリンブーツ着用 ・箱メガネを借用
2	磯遊びで各自が見つけて採集した海藻について交流する。 ・のと海洋ふれあいセンターの自然体験室に移動し，前時の磯遊びで見つけて採った海藻について，職員から名前を聞く。 ・海藻に触れて感じたこと，気がついたことを伝え合う。	・児童の主体的な表現や気付きを大切にするため，海藻の名前や生える時期だけを教えてもらう。
3	海藻の標本づくりをする。 ・採ってきた海藻を洗って乾かし、標本にする。 ・名前や海藻について思ったことをカードに書く。	・聞いてきた名前を書き，海藻に触れた時の感想を書く。

<table>
<tr><td>4</td><td>海藻発表会をする。
・自分の選んだ海藻について紹介する。
・友達が紹介した海藻について，質問して交流する。
・標本を見て，自分と友達の表現の違いに気付いたことや新たな発見を伝える。</td><td>・友達の話を聞き海藻を見直すことで，夏の海藻とじっくり触れ合う時間を確保する。</td></tr>
<tr><td colspan="3">外部連携／教材等
・のと海洋ふれあいセンター　東出さん　湊さん
【資料】　能登里海教育研究所『海の観察ガイド』</td></tr>
</table>

５　活動の様子

磯観察の様子

自然観察室にて

標本づくり

６　成果・課題

〇進んで里海の自然と触れ合うことで，諸感覚を通しての気付きが生まれ，夏の自然について知ることができた。

〇磯観察では生き物に興味関心がいきがちだが，海藻に視点を絞って説明していただいたおかげで，海藻についての気付きを多くもつことができた。⇒　自学ノートに聞いてきた話や見てきた海藻について書いている子もいた。

〇東出さんに採ってきた海藻について丁寧にお話をしてもらったおかげで，児童は生き生きと活動していた。

▲屋外での体験活動は，天候に左右されることがあるので，予定の日に行くことが難しい。

▲海辺は広く，危険が伴うこともあるため，安全面に十分配慮する必要がある。

▲海の状態によっては行けない場所があり，そこに生えている海藻を採集することができないこともある。

７　子どもの反応やミニ感想

・アマモは長くてぷるぷるで，触ると丸いぷつぷつがありました。

・ツルモは長くて茶色です。私のあしからあごまでと同じ長さです。

・フサイワズタは触るとぷちぷちで，ぬるぬるです。

・海藻は、さわるとぬるぬるする。わかめみたいなにおいがする。